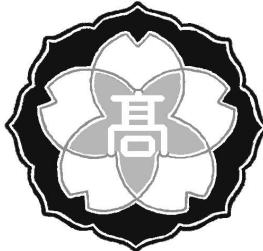


電子版

生徒手帳

令和 7 (2025) 年度



神奈川県立横浜平沼高等学校

校歌・校章の由来

校 歌

佐佐木信綱 作詞
幸田 延 作曲

Andante

校 歌

佐佐木信綱 作詞
幸田 延 作曲

Andante

まなびのみちにいそしむは
われらがひびのつとめなり
みそらににおうふじのねは
われらがむねのかがみなりも
もふねちふねつどいよるみ
なとのさかえきわみなし
かゆるはるをむかえつつみ
くにのはなとさきいでむ

学びの道にいそしむは
我らが日々のつとめなり
み空に匂う富士の嶺は
我らが胸のかがみなり
百船千船つどいよる
港の栄えきわみなし
栄ゆる春を迎えつつ
み国のはなと咲き出でむ

校歌の由来

本校の校歌は、大正5年立大使礼奉賀式（後の昭和天皇が正式に皇太子になった式典）を記念して制定されました。

歌詞は竹柏会を創設し明治の代表的歌人佐佐木信綱に、作曲は文部省の音楽調べ所（東京芸大の前身）出身の幸田延に、それぞれ依頼したものです。幸田延は文豪幸田露伴の妹で、当時としては珍しい音楽留学をした才媛でした。校歌の冒頭二小節は調こそ違うものの、延の弟子で滝廉太郎の「荒城の月」のそれと同じものです。

校章の由来

校章は、「裏桜」と「鏡」とで構成されています。
裏桜の方は、堅実、謙譲、優雅、清潔を意味し、
鏡の方は自らを照らすという、自省、明快、努力を
意味します。

